



1941年東京生まれ  
1964年早稲田大学卒  
東部フットボールクラブ 前会長  
流山市議当選 2期目

# 市議会 ほねぶとレポート

## シンポジウムのお知らせ

### 地域で支える**在宅医療**と **仕組みづくり**を考えよう!

現場の幸せや痛みに寄り添うために

**2018年7月15日 日曜日**

開演: 9:30~11:30 (開場: 9:00)

場所: 流山市南流山センター (2Fホール)

〒270-0163 千葉県流山市南流山3-3-1

**明日は我が身と  
考えて  
勉強しよう!**



元流山医師会会長  
大津直之  
医師

現在は向小金クリニック院長

#### 講師

医師、元松阪市市長  
**山中光茂氏**

1976年松阪市生まれ。慶応義塾大学法学部卒。群馬大学医学部に学士入学、医師免許取得。2004年からケアにおけるエイズプロジェクトに関わる。2007年、三重県議会議員に当選。2009年の松阪市長選挙に当選、当時全国最年少市長となる。現在は訪問診療・在宅医療の医師

#### 1部: 講演「地域で考える在宅医療と仕組みづくり」

～現場の幸せや痛みに寄り添うために～  
げんきらいふクリニック院長 山中光茂氏

#### 2部: 市民、地元医師を交えて意見交換会

元流山医師会会長 大津直之医師  
と市民クラブ5名の参加者

## 「就活」ならぬ「終活」に一工夫?

横須賀市が4月に市民に提案し、5月から「就活」ならぬ「終活」情報の市への登録とは、高齢化が一段と進む中、一人暮らしで倒れたり、亡くなったりした際に、市が親族等の照会に応じて管理していた情報を伝える。

「墓」「遺言」など死後の尊厳を守るために希望が正確に伝わるよう希望者からの登録を受け付ける新制度を発足させた。

横須賀市の「終活情報登録伝達事業」(通称・・・わたしの終活登録)は、緊急連絡先・希望を記した「エンディングノート」・遺言書・墓の所在地などを生前に登録し、本人が亡くなったり、意思疎通が怪しくなったりした際に、本人が指定した人や医療機関・警察などの照会に応

じる仕組みである。

その背景には、身元が分かるのに遺体引き取り手が現れない無縁仏が増加しているというご時世。横須賀市で、登録した男性(64)は、「50代で脳梗塞になり、再発が不安」と話す。「身寄りもなく、死後に周囲に迷惑をかけたくない。市の事業なら安心」と話す。

流山市でも、関係ないと見過ごす状況でもないので6月定例会で一般質問した。市では無縁仏が横須賀市ほど顕著に多くなく、目前の事象としてとらえにくく、今後研究してからというのが答弁であった。皆さんは、この制度がスタートした時にはどのように受け取られますか? 登録されますか?